

トルコ為替週報

2022年8月23日 | みずほ銀行欧州資金部

〈過去1週間の動き〉 (8月16日～8月22日)

USD/TRY: 17.9350～18.1500

TRY/JPY: 7.43～7.60 (参照値)

過去1週間のトルコ・リラ相場は、対ドルで下落。ただし、値動きの殆どはトルコ中銀が予想外の利下げに踏み切った18日に集中しており、その他の日は、逆に不自然なほどの膠着を支配的とした。対円では、ほぼ一貫して、じわじわと水準を切り上げたが、これは折からの円安基調を反映した値動きで、リラ堅調ではなく、円安の結果だった。18日、トルコ中銀金融政策委員会は、市場参加者の一致した金利据え置き予想を裏切り、-100b.p.の政策金利引き下げに踏み切った。ついふた月余り前(6月6日)に、エルドアン大統領が「利下げ継続」を約束した以上(注)、あるとしたら利上げよりも、利下げと考えていたものの、CPIが前年比+80%に前後する高水準にあり、しかも、頭打ちの気配を見せないこのタイミングで、よもや利下げに踏み切るとは予想できなかった。しかし、考えてみれば、そもそも、+80%のインフレ率に対して、政策金利が14%という現実自体が異常で、①それが15%であっても、13%であっても大差ないという考え方はできたであろう。利下げの衝撃に比して、リラの反応が鈍かった(下落幅が小幅だった)ように感じられた要因としては、他に、②トルコ国営銀を介したリラ買い(トルコ中銀による実質的な為替介入) ③非居住者投資家などが、売るためのリラ建資産を既にほとんど保有していなかったなどといった可能性が考えられた。この局面のリラ急落(対ドルで17.96～17.97近辺から、一時、18.1500まで1%強の下落)に前後しては、17.97を底値とした不自然なほどの膠着(急落以前)、18.12水準を底値とした不自然なほどの膠着(急落後)が続いた。

〈過去1週間に発表された主要経済指標等〉

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
8/18	11:00	1週間物レボ金利		13.00%	14.00%	14.00%
8/22	8:00	外国人観光客(前年比)	7月	+52.8%		+144.9%r

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

〈向こう2週間の見通し〉 (8月23日～9月5日)

USD/TRY: 18.050～18.350

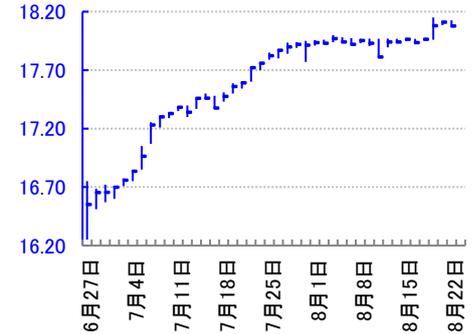
TRY/JPY: 7.50～7.70

向こう2週間のトルコ・リラ相場は、引き続き、構造的なトルコ経常赤字の定着(リラ売り需要>リラ買い需要)を背景に、基調、リラ安を予想。ただし、リラ安進行の速度は限定的なものになるものと見込む。トルコ経常赤字の背景には同貿易赤字の定着があり、貿易赤字は燃料価格高騰(トルコは明確な純燃料輸入国)、(政府による与信拡大政策にも煽られた)トルコ国民の旺盛な消費意欲(輸入高止まり)、コロナ禍や山火事、地政学的不透明感(治安に対する不安)などを背景とした観光収入の低迷など構造的で、早晚、赤字縮小(黒字化)に傾く可能性は考え難い。ただし、22日発表されたトルコ7月の外国人観光客数が、前月の前年比+144.9%(改定値)から+52.8%に急減速したのは、一見失望をかう数字であったものの、同統計は、コロナ禍以降の特殊要因が大きく、7月の数字も、「観光客の絶対数で、初めてコロナ禍以前の(当該月)の水準を上回った」事実は好意的に評価することもできただろう。一方、緩やかなリラ安を予想するのは、上述、①～③の「リラが思いの外底堅かった」要因に、それなりの説得力を感じるから。①はあくまでも感覚的なものに過ぎないが、②は、トルコ保有総外貨準備(週次統計)が7月22日の597.1億ドルから、611.0億ドル、677.7億ドル、725.6億ドルと週を追う毎に急増していることが、説得力を増している。外貨流入は、総額150億ドルなどと観測された、ロシア製原発建設資金のロシアからの融資と目される。それを、トルコ中銀が、地場商業銀との為替フォワードなどを通じて「吸い上げた」のだろう。③の説得力は、2017年末の最盛期に900億ドル前後まで膨らんだ非居住者のトルコ株/トルコ国債保有残高が、足元200億ドル弱にまで減少してしまった事実求められよう。

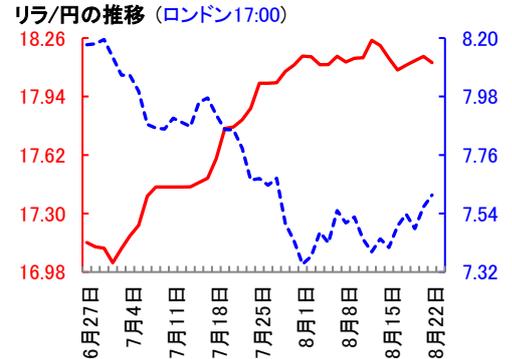
〈向こう2週間に発表予定の主要経済指標等〉

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
8/25	7:00	設備稼働率	8月			78.2%
8/29	7:00	貿易収支(USD)	7月			-8.17bn
8/31	7:00	GDP(前年比)	Q2			+7.3%
9/5	7:00	CPI(前年比)	8月			+79.60%

USD/TRYの推移 (日足/ロンドン 7:00～17:00)

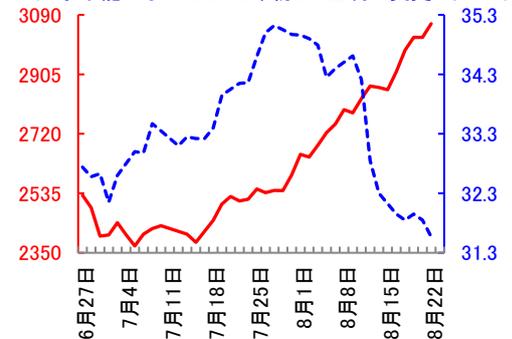


バスケット/リラの推移 (トルコ中銀公示)



株式市場の推移 (ISE 100種指数)

長期金利の推移 (5年物OIS金利: 5年物金利スワップ金利が入手不能になったため5年物OIS金利に変更しました)



(資料: トルコ中銀/トムソンロイター/ブルームバーグ)

トルコ関係主要経済指標

1週間物レボ金利		13.00%
成長率(GDP/前年比)	Q1	+7.3%
失業率	6月	10.3%
消費者物価(前年比)	7月	+79.60%
鉱工業生産(前年比)	6月	+8.5%
小売売上高(前年比)	6月	+5.5%
貿易収支(USD)	6月	-8.17bn
経常収支(USD)	6月	-3.46bn

〈お知らせ〉

英休日のため次回の「トルコ為替週報」は9月6日の発行を予定しております。ご迷惑をお掛けしますが、よろしくご諒承ください。

(注) 同大統領は、22日の現地時間夜にも、「利上げは不要」との持論を繰り返し強調した

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。